



# お知らせとお願い



エコピア泉北に搬入される**資源ごみの分別は手作業**で選別しています！

## ～手選別名人に聞きました～

資源ごみであるプラスチック類は機械による選別ができないため、組合市のシルバー人材センターの方々による手作業にて分別が行われています。エコピア泉北で作業にあたられているC班の班長である、牧田さんにお話を伺いました。



高石市シルバー人材センター  
C班・班長 牧田さん

手選別の現場をのぞいてみましょう！

Q1 普段されている仕事内容は？

A 容器包装プラスチック選別ラインで容器包装プラスチックとペットボトルを分別しています。

Q2 手選別するうえで、気をつけていることは？

A 医療系廃棄物を始め、危険物が流れてくることがあるので、誤って掴んでケガをしないように気をつけています。手選別でしっかり分別できれば良い成型品を搬出できるため、分け逃がしのないように気をつけています。

Q3 搬入禁止物等が流れてくることは多いですか？

A 流れてこない日はなく量としては多いです。危険物などの搬入禁止物が流れてくると、安全確保のため選別ラインを止める必要があり、その間は作業が止まってしまうんです。

Q4 最後に市民の方々にお願いしたいことは？

A 大多数の方がしっかり分別していただいています。中には間違った分別も多くあります。今一度、資源ごみの分別を徹底してほしいです。処分方法が分からないごみがあれば、お住まいの市に問合せするなどしてもらえたら有難いです。

## 新型コロナウイルス感染症**拡大防止**の観点から特に気をつけてほしいこと

※一人ひとりがごみの捨て方を注意することで、手選別作業者の感染リスクを大きく下げることにつながります。

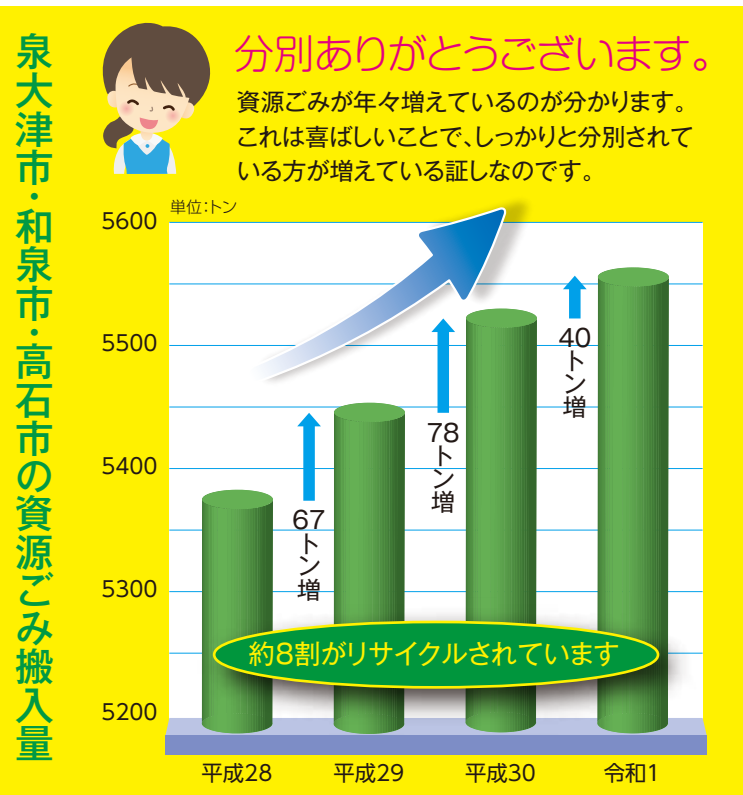
感染症拡大防止のため

飲料容器は飲み口を中心にしっかり洗う  
(かん・ビン、ペットボトル)



感染症拡大防止のため

使用したマスクは素材に関わらず、  
ビニール袋等に入れて口をしぼってから可燃ごみへ



# 泉北クリーンセンターだより

泉北環境整備施設組合  
広報紙

Vol.10  
令和3年3月



【発行・編集】泉北環境整備施設組合 泉北クリーンセンター 〒594-0001 和泉市舞町87番地  
電話:0725-41-2030 FAX:0725-41-2115 http://www.senboku-kankyo-ichikumi.org

## 環境懇談会

令和3年1月25日、高石市役所にて環境懇談会が開催されました。組合市3人の首長が、前環境省の古来氏をお招きして環境問題について積極的な意見交換がなされました。



管理者  
高石市長  
阪口 伸六

(前)環境省  
地球温暖化対策課  
事業監理室長  
古来 隆雄

副管理者  
和泉市長  
辻 宏康

副管理者  
泉大津市長  
南出 賢一

## カーボンニュートラル時代の環境行政について



### カーボンニュートラルとは

政府は「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわちカーボンニュートラル脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

### 「つなげよう、支えよう森里川海」

環境省が進めるプロジェクト、国民全体で「森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出すこと」「一人ひとりが、森里川海の恵みを支える社会をつくること」を目指しています。

### 地域循環共生圏とは

各地域が美しい自然景観等の地域資源を、最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方です。

懇談会の内容は  
次ページへ



古来 隆雄氏

(現職)一般社団法人 地域循環共生社会連携協会 審議役  
(前)環境省地球温暖化対策課 事業監理室長として「森里川海プロジェクト」や地球環境や資源を最大限に活用し、循環型社会の形成をめざす「地域循環共生圏」を提唱。現在も循環型社会形成に向け、各方面で活躍中。

## 環境シンポジウム

動画配信

4月上旬予定

プラスチックごみ問題を考える

環境シンポ 2021 泉北環境

～リユース、リサイクルの取り組み～

主催：泉北環境整備施設組合  
共催：泉大津市・和泉市・高石市  
場所：泉北環境整備施設組合  
開催日：令和3年3月30日(火)  
内容：大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科の  
花田真理子教授をお迎えし、講演をおこなっていただくと共に、  
組合三市長との意見交換会を行います。

当環境シンポジウムは新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、無観客で開催いたします。当日の様子は、後日組合ホームページにて配信予定です。



古来氏

## カーボンニュートラルについて

阪口市長 政府は2050年までに温室効果ガス量と吸収量を差し引きして実質ゼロとする「**カーボンニュートラル**」の考え方を打ち出されました。今後、この方向を我々自治体がどういう認識、どういう形で取り組むべきでしょうか？

古来氏 政府が宣言したカーボンニュートラルは、国と地方との連携について今後、諸施策が発表されるでしょう。そうすると財政的な支援や制度的な支援をシンクロさせる事が出来る。その一環として、小泉環境大臣は**ゼロカーボンシティ宣言**を市町村に勧めております。

南出市長 泉大津市も100自治体目の団体として宣言しております。

阪口市長 三市と泉北環境が一体となって、積極的にゼロカーボンシティを進めて行きましょう。

## 環境懇談会



阪口市長

## 森里川海プロジェクトについて

阪口市長 組合三市の人口は30万人にも上り、各市にはそれぞれ特徴があります。和泉市には山や立派な丘陵があり、高石市、泉大津市は豊かな海があり、三市に流れる親水空間としての河川があります。この三市がまとまれば、各市の長所から得られる利益を共有できると考え、泉北環境と三市で**森里川海プロジェクト**を立ち上げていますが、いかがでしょうか。

古来氏 良い取り組みだと思います。地域として50年、100年先の社会を考え個々の地域にとって、何が大事なのか考えていかなければなりません。一方で、コロナの影響で世の中が大きく変わるとき、機敏に世の中の流れを見ながら、地域を考える必要があります。

## 環境教育について ~大学生から高校生へ・高校生から中学生へ~

阪口市長 森里川海プロジェクトについて、羽衣学園の生徒が**SDGsへの取り組み**を行うなど、学生や小さな子供たちも環境問題に関心をもっており、それを育てていくということは大事かと思われませんが、それに対して市町村の教育行政はどのようにアプローチしていけば良いのでしょうか。

古来氏 環境の学習については中学生までに基本的な内容を理解してほしいですね。また、世代間のギャップが少ないほど、発信内容は良く伝わります。中高大学生はもう一人前の大人ですから、目的さえ合えば自分たちで考え、進めてくれます。彼らに協力してもらった環境教育が有効だと思いますよ。**大学生には高校生をレクチャー**してもらおう。そして高校生は中学生にといった具合です。



羽衣学園(高石市)



辻市長

## 自然とふれあう住環境

辻市長 大阪府内には限界集落化した自治体こそ少ないですが、和泉市は市域が広いこともあり、人口が減っている地域があります。そういう地域をどうやって維持していくかが今の大きなテーマとなります。切り離しや統廃合していただくだけでなく、そこを含めて、都市部と山間部の市域全体の**活性化**を図るような事をしていけないといけません。そのためには、地域の人々が本気を出さないと、行政に頼りきりでは地域は活性化しません。地域の人々と一緒に**自然とふれあう住環境**などの事業を進めていきたいと思っています。

古来氏 「仕事」と「住む」というものが分かれつつあり、都市の魅力は二極化するのではないかと思います。和泉市では、都市部に普段住み、週末は山手の方で暮らすなど、気分転換やストレスに対して、安心感を持つという生活環境を構築でき、そういったものが求められる気がします。

## 自然に回帰 ~循環型システムの構築~

南出市長 2025年の万博を見据えて、自然科学の技術によってそこに住む微生物に最大限力を発揮してもらうことにより、河川や海の水を蘇らせることで生物多様性を実現することが可能であると考えています。また同様の取り組みを、泉大津フェニックスのような、産業廃棄物でできた埋め立て地の芝生広場についても、**自然の土に回帰**させたいという想いもあります。我々人間は自然の一部であることを再認識し、循環型システムの構築を本気になって**官民連携、市民共創**で都市部にてやっていくことに意義があると思います。

古来氏 おもしろいですね。色んな話を聞かせて貰えれば、そこから何が出てくるかは、化学反応の世界です。現場の色んなアイデアをいただきたいです。



南出市長



森里川海イメージ



芦田川ふるさと広場(高石市)



写真提供:好日山荘

横尾山登山(和泉市)



泉大津フェニックス釣り体験(泉大津市)